

'16年末 八ヶ岳・美ヶ原山行報告書

(山域) 八ヶ岳・美ヶ原

(コース) 12/29: 渋の湯～黒百合ヒュッテ～東天狗岳～根石岳～根石小屋

12/30: 根石小屋～東天狗岳～西天狗岳～黒百合ヒュッテ～渋の湯

12/31: 山本小屋～牛伏山～美しの塔～王ヶ頭～山本小屋

(日時) 12月29(木曜日)～12月31(土曜日)

(天候) 12/29 晴れ(風強し)・12/30: 曇りのち晴れ(風強し)・12/31: 晴れ(微風)

(参加者) CL: 内堀(記録)・小宮山

(山行タイム)

12/29: 渋の湯 8:30～黒百合ヒュッテ 10:15～東天狗岳 12:00～根石小屋 13:00

12/30: 根石小屋 7:40～東天狗岳 8:25～西天狗岳 8:45～黒ヒュッテ 9:55～渋の湯 12:25

12/31: 山本小屋 9:25～牛伏山 9:35～美しの塔 10:20～王ヶ頭 11:00～山本小屋 12:15

(山行報告)

12/29

前日の夜(12/28: 水曜日) 幕張本郷駅に22:00待ち合わせして、首都高・中央道を進み、諏訪南ICで降りて、茅野市内にある茅野運動公園駐車場で仮眠する。結構車あったね。翌朝またや寝坊して出発が遅れてしまい、バス時刻に間に合わず車にて渋の湯を目指す。途中、買出しを行い渋の湯到着したのが7:50頃でバス到着時刻より早く着いた。車を止め出発準備をする。そのうち一番バスが到着して、次々と出発していく。我々も準備が整った後は、つぼ足でゆっくり登り始める。渋の湯から雪が付いており、登山靴は汚れずになり後が楽である。高見石方面の分岐を越え唐沢鉱泉分岐を越える頃には雪がかなり増えていた。もう少しで黒百合であり、休憩も取らず進み続け、ようやく黒百合ヒュッテに到着する。上空はかなりの風が吹いており、樹林帯の上空がかなり動いて、音もあり風の強い事が伺えた。黒百合ヒュッテで少し長い休憩を取り、体を休め気合を入れる。ここからアイゼンを付け出発する。数分で中山峠を過ぎ、樹林帯を進んでいくと、目の前に東天狗岳が見えて来る。右を見ると西天狗が少しずつ姿を現す。格好良いね。樹林帯を過ぎたあたりから風が体に感じ始める。今日は少し寒い。体に響く。最後の急登を上がると東天狗岳に到着する。風があるね。時間を見るとまだ早い。本日、硫黄岳に行って根石小屋に戻れるそうである。西天狗を飛ばし記念撮影後はピッケルを出して慎重に進む。東天狗から先の稜線は殆ど歩いていない。吹き溜まりは雪が深く、風の強い場所は固い雪とアイゼン・ピッケルを使い慎重に下降する。本沢温泉(白砂新道)分岐地点では更に風が強まり、バランスを崩す場面があり、自身を確保しながら進み、根石岳を目指す。根石岳山頂直下は痩せ尾根、慎重に進む。登る途中より小宮山さんの調子がイマイチで寝石小屋までとする。根石岳を登った時に、ようやく根石小屋が見えた。ホットするも束の間、ここからの風はものすごく、何度かバランスを崩し、体を持って行かれそうになる。小屋に到着したときにはやれやれである。小屋に入り宿泊手配を済ませ、部屋に案内される。部屋は別棟にあり綺麗そのものである。1番乗りのため部屋は寒く、慌ててストーブを付け温める。我々も登山服を脱ぎ、部屋服に着替えリラックスする。この部屋、ストーブも3台・テーブル、TVもあり普通の旅館である。超楽チンであるね。遅い昼食を食べた後、する事もなく布団に入り寝てしまった。睡眠後は丁度、夕食時間になり、そのまま食堂に向かい、食事をする。稜線沿いの山小屋としては贅沢な食事である事、間違いなさそうである。この根石小屋にした理由は、部屋・トイレが綺麗、食事はかなり良いとのことから予約して来た次第である。さすが、硫黄岳山荘グループである。(硫黄岳山荘・根石小屋・夏沢鉱泉) 年末年始・土曜日は冬季でも営業しているようである。また来たい場所である。食事後は少し酒を飲み歓談後、就寝する。

12/30

早朝5:30頃に起きて、外は相変わらず風の音が轟音を響かせていた。朝食を食べ本日の行動は如何するか、①このまま引き返すか? ②硫黄岳に登り美濃戸口降りて、車を回収するか、また

は、③硫黄岳を登り洪の湯に戻るか？ ②は費用が掛かり過ぎとバスの時間が無いと判り、①③しかない。外に出て決めようと思い、出てみると昨日より風は強い。体力的に厳しいので、①に直ぐ作戦決行する。体が温まらない状態での根石岳を登り、下降は結構きつい。慎重に下降して本沢温泉分岐、今度は登りであるので、ゆっくり登りに東天狗岳に到着した時には、体は温まっていた。しかし、手袋・アウター・ピッケルは凍りつき白い。出発した時はガスの中であったが、東天狗岳に着いた時には青空が見えていた。時間も残り西天狗岳に向かう。山頂は東天狗岳より更に景色は良く八ヶ岳が一望できる。何故か風は無い。硫黄岳～根石・東天狗岳（手前）の間に雲の動きが流れて行き、雲の動きが手に取るように判る。この天狗岳より北は風が吹いている物の、風は少ない事が伺える。記念撮影後は、東天狗手前を左に進み下山する。この頃になると、黒百合ヒュッテよりドンドン登ってくるではありませんか？ 登り優先、道を開け、更に道を開け、時間だけが経過する。いなくなった隙に一気に下降して中山峠に向かう。ここまで来ると風は感じない。気持ちの良い陽だまり登山であり、服の中は暑い。黒百合ヒュッテでは昨日、売り切れであったおはぎセットを注文して休憩する。ヒュッテでは人込み溢れていた。宿泊手配、昼食、休憩と賑わっている。2年前に来た時はこの主人の態度が悪く、泊まりたくない山小屋であったが、今回は若い人が対応し、愛想が良い。人によって違うものである。休憩後は、一気に洪の湯に下山した。登ってくる人はかなり多いようである。洪の湯に到着した時には駐車車両が昨日より少ない。明日から入り正月を過ごすのだろうと、本日は中休みかな？ 車を飛ばし茅野市内を過ぎ、諏訪湖班にある温泉「すわっこランド」に入り疲れを取った。途中、塩尻市内のスーパーで夕食を買い物して、道の駅「小坂田公園」でテントを張り宴会を行い、早々に就寝した。山の上でもないのに温度が下がり冷え込んでいた。

12/31

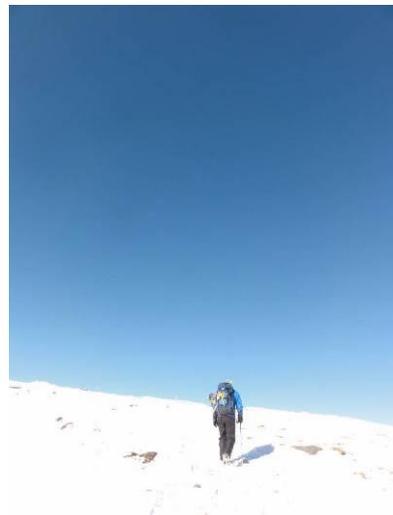
朝方起きるとテントの内側は霜が降り、粉雪の如くなっていた。寒かった。-6℃朝食後、テントの外に出て支度するものの寒くて進まず。車にはビッシリと霜が付いていた。身支度を済ませテントを撤収する。山のように手が悴んでしまった。準備を終わらせ車に乗り込み、国道20号線を進み塩尻峠を越え、岡谷より142号線から152号線を進み、長和町より左折して美ヶ原高原に向かう。途中より道路に雪が大量について滑りながら登り続け、1900m標識を越えると山本小屋（ふるさと館）に出る。ここに駐車して身支度を行う。青空で風は無くハイキング日和である。準備をして早々に歩き始める。雪のつきは少なく、まずは牛伏山に登り360度ビューを堪能する。左から昨日まで行った八ヶ岳・富士山・南アルプス。中央アルプス・御嶽山・乗鞍岳・北アルプス（少し雲の中）・妙高/火打山で更に右側に四阿山・浅間山と見える。何と良く見える場所であるか、やはり美ヶ原の名前の通りである。美しい。冬に来る場所ですね。そこから、美しの塔に向かう。近くに見えるが中々近づかない。本日、つぼ足のため雪の深い所に会うと中々進まず悪戦苦闘の末、ようやく美しの塔に到着。更にその先には、王ヶ頭のある鉄塔群がある。先にスノーシューで来ていた方のルートがあり、その後を追い続けるといとも簡単に進み、王ヶ頭に到着する。ホテル前では年末・年始の準備として「どんと焼き」準備を行っていた。ホテルを回りこみ王ヶ頭に到着。ここで記念撮影。女性一人で写真を撮っていたので訳あり女性化と思いきや、ホテルに働いている方でした。真面目な方でしたね。その後、ホテル前のテーブルで休憩を取り、一般道で山本小屋に戻り帰り支度を済ませる。本日の核心部である雪の付いた下り道路、減速してゆっくりゆっくりと進み長和町に到着。近くにあった和田宿温泉「ふれあいの湯」で汗を流し、佐久経由で長野道・関越道を進み、渋滞も無く帰業した。美ヶ原はとても綺麗で冬に行く場所であると再発見した。今度はカメラを持って写真を撮りに行きたいと思った。

今年は燕岳を登ろうと思っていたが、天候・体調を考慮して八ヶ岳にして風の少ない所としたが、硫黄岳の風が強いと思っていたが、根石岳付近は負けず劣らずの風であった。また、根石小屋が予想以上に良い小屋であることは間違いなさそうであった。お金がある時にまた泊まろう。





<12/31 : 美ヶ原>





以上